

第3回 日タイ観光WG(議事要旨)

日 時:令和6年8月27日(火)8:30 ~ 11:20(現地時間)

会 場:チョンブリー県パタヤ モーダス ビーチフロントリゾート会議室(対面・オンライン併用)

テマ:地域主体の観光振興について

~コミュニティベースドツーリズム(CBT)のベストプラクティスに関する意見交換~

出席者:

(タイ側)【コアメンバー】

観光スポーツ省:モンコン副次官【共同議長】、ゲサラボーン国際部長、DOT(観光局):シワポン氏、TAT(タイ政府観光庁):チャンティマー・ポーン氏、DASTA(持続可能な観光のための指定地域管理局):ワンビヴァ戦略管理部長、TCEB(MICE部局):ナバットマネージャー、カセート大学・TSRI(研究開発推進機関「タイ科学・研究・イノベーション」):プーリワット准教授

【有識者:講演者】

- ・ DASTA(持続可能な観光のための指定地域管理局):ワンビヴァ戦略管理部長
- ・ TAT(タイ政府観光庁)国際協力部門:プロイチョンプー氏

(日本側)【コアメンバー】

JTRI-AIRO:奥田専務理事・AIRO所長【共同議長】、富田AIRO次長、観光庁:河田観光戦略課長(オンライン参加)、在タイ日本国大使館:山川一等書記官、JNTO:竹内企画総室長(オンライン参加)、中杉バンコク事務所長

【有識者:講演者】

- ・ 日本旅行業協会:伊東 海外旅行推進部国際センター所長
- ・ 運輸総合研究所:鈴木 研究員

議事概要:

1. 開会挨拶

(1) モンコン副次官

- ・ タキアンティア・コミュニティはCBTの成功事例としてASEANからも認定されている代表的なコミュニティであり、本日のWGでは日本側から積極的に感想・意見を述べていただきたい。
- ・ タイは「Ignite Thailand」というビジョンのもとに第二都市の観光振興を推進しており、訪れた観光客に対して、その土地ならではの新しい体験を提供していくことも重要と認識している。

(2) 奥田専務理事・AIRO所長

- ・ タイが推進するCBTの代表例であるタキアンティア・コミュニティを視察し、ココナツを使った料理、染物、ディスクゴルフを体験し、現地の方々の温かいおもてなしの下、貴重な体験をさせていただいた。
- ・ 本日、活発な議論を行い、日タイ両国の観光振興及び交流の更なる促進につなげたい。



2. 出席者自己紹介

日タイ観光ワーキンググループのメンバーを紹介

3. 講演者説明

(1) DASTA(持続可能な観光のための指定地域管理局): ワンビヴァ戦略管理部長

講演テーマ: タイにおけるコミュニティベースドツーリズム(CBT)の開発

コミュニティにおける観光を通じた持続可能な開発を目的とするDASTAの役割について説明。

DASTAにおけるコミュニティの開発時の計画や指標、ツールについて紹介。実際にそれらを活用し地域とDASTAが協力しながら開発を進めたことで、タキアンティア・コミュニティは、成功に至ったことを説明。

(2) TAT(タイ政府観光庁) 国際協力部門: プロイチョンプー氏

講演テーマ: CBT観光プロモーション ~タキアンティアのケーススタディ~

TATでは、CBTとして外部に販売できる体制が整った地域(DASTAによる開発事業の後)において、メディアファムトリップを含むキャンペーンやマーケティングプロモーションを実施していることを説明。これまでのCBTプロモーションの取組みを実際のPVを示しながら紹介。タキアンティアはTATとDASTAおよびTOEBが連携してプロモーションを実施した一例であることにも触れ、さらに国内のみならず海外へのプロモーション等の支援を行っていることを説明。

(3) 日本旅行業協会: 伊東 海外旅行推進部国際センター所長

講演テーマ: 日本の旅行業界と海外旅行販売の現状と課題

日本の海外旅行販売の現状について、コロナ前と比較し、未だ回復途中であること(日本からタイへの旅行客は平均以下の回復率。なお、トルコ・韓国が好調)を説明。航空座席の不足、旅行代金の高騰が現在の課題であることを説明。

JATAは海外旅行販売促進のため、台湾や香港とのイベントを企画し、その国でしか味わえない体験が重要であると強調。

(4) 運輸総合研究所: 鈴木 研究員

講演テーマ: 観光を活用した持続可能な地域経営に関する研究

JTRRI、UNツーリズム、観光庁は共同で作成した「持続可能な地域経営の手引き」について説明。

事例として岐阜県を取り上げ、11のステップと3つのフェーズ(課題抽出、指標の設定、PCDAサイクルの推進)を通じて成功に至った経緯を説明。観光・農業・伝統文化を包括的に推進し、周遊滞在型観光地として確立できたことを強調。

4. 議論

(1) タキアンティア現地視察を踏まえた意見交換

○ 日本コメント

・無農薬でココナッツを栽培しており、サステナブルな観点からも、安全で質の良いココナッツを収穫できる点からも優れている。また、人々のホスピタリティーが素晴らしいだけでなく、料理体験、染物体験、ディスクゴルフ、ホームステイ等、収入源が豊富である点にも感銘を受けた。今後に向けて、学生向けの教育旅行を提案。

・更なる発展のために、ココナッツが市場でどのような商品となって流通しているかをプラスして紹介すること及び観光における食事の重要性を指摘し、現地の人が多く利用するレストランを紹介することの2点を提案。

・タイでは、①どのような方法で住民の観光参画の同意を得ているのか、②次世代のCBTリーダーとしてどのように若者を育成しているのか、について質問。

(タイ側からの回答)

・①CBTへの参加意欲に基づいて、住民を3つのグループに分類し(参加したい、参加したいかわからない、参加したくない)、コミュニティ開発に参加することによるメリット・デメリットを説明。さらに、CBTによる利点についても住民とDASTAで擦合せを実施。

②タイの若者間の起業トレンドを利用し、ソーシャルエンタープライズのスキームを活用。また高齢者と若者のペアリングによる育成およびコーチングを実施。

(2) CBTに関する日タイの今後の協力可能性について(テーマ:鉄道駅周辺の観光開発)

- ・(タイ側 TAT) : JR北海道から受領したKIHA183について触れ、タイ人の間では現在、鉄道旅行がトレンドであり、MOTSとTATは鉄道を活用した観光旅行のプロモーションを推進中であることを説明。JTTRIと協力して、景観デザイン、地域産品、観光アクティビティー、コミュニティ参加を改善させるため、「鉄道観光の体験の設計に関する研究 : Talat Phlu 観光コミュニティの事例研究」("Study for the design of train tourism experience: A case study of Talat Phlu tourism community") を実施したい。第3回WG終了後の8月28日(水)に現地視察を提案。
- ・(日本側 JTTRI) : Talat Phluの現地視察を行った上で、関係者で打合せを行い、協力の方向性を検討したい。

5. 第4回WGについて

両国は、第4回WGについて以下の通りで合意することとした。

(開催時期) : 2024年12月～2025年1月(日程は後日相談)

(開催場所、形式) : MOTS会議室、対面・オンライン(ASEAN関係者へオンライン参加を案内)

(内容) : 第1-3回WGとりまとめ、有識者によるパネルディスカッション(有識者は後日相談)

6. 閉会挨拶

(1) 奥田専務理事

- ・第2回及び3回のWGにおいて、「DMO等による観光地の魅力創出・プロモーション」、「高付加価値化による地方への誘客」、「観光を活用した持続可能な地域経営」の重要性等について議論を行った。
- ・第4回は議論を取りまとめた上で、その内容が広くASEANに共有され、この取組が日タイ観光の更なる振興に向けて有益なものになることを期待。

(2) モンコン副次官

- ・本日のWGで共有された知識や視点を今後も積み上げ、両国でCBTを更に発展させていくことを願っている。
- ・今回のWGが無事に開催されたことに日本側及びタイ側関係者に御礼申し上げたい。
- ・また第4回WGも両国の協力のものと、日程を調整していきたい。



以上